

・著者の自己紹介

さて、本の性質上、体験者であり、取材者である著者のスペックをざっくりと書いておこう。

まず容姿は、不本意ながら、十代以降褒められたことはない。身長は百六十センチ強。体重は七十キロ弱。頭は大きく、足は短い。ウエストのサイズは七十五センチで、頭が大きくて、重心が低いせい、小太りに見られる。

・・・

仕事はフリーランスの著述業なので、経済的には不安定だ。**本を何冊かは出しているものの、印税で生活できるような身分ではない**。当然、貯蓄はほとんどない。病気をしたら、人生は実質的に終わる。だから、ときどきたまらなく不安になる。

性格はよくない。社会人として仕事の場では温和を装っているものの、親しくなった人には意地の悪さを見破られる。

心の中で、私はいつも意地悪なことを考えている。意地悪なことが次々と頭に思い浮かび、それを、口にしない、行動に移さないことに神経をつかって暮らしている。

・・・

大卒だが、二年も浪人し、さらに二次募集まで追いつめられ、東京郊外の三流私立大学の文系の学部にひろわれた。

結婚経験は三十代で一度。そして、一年ほどで離婚している。

ただし、四十年以上も生きてきているわけだから、一般的なアベレージよりもまだだと自覚できることもあるにはある。それは、**人との会話に抵抗がないこと**だ。

フリーランスの著述業という仕事柄、取材と称してさまざまな分野の人と接するのが日常だ。つまり、**初対面の人との会話はまったく苦にならない**。

・大手婚活サイト

まずは入会手続きだが、画面の指示にしたがって、入会金と月会費計数千円を支払う。すると登録が完了する。実にかんたん。

登録をすると、まず証明書の提出が求められる。**本人証明、住所証明、勤務先証明、年収証明、卒業証明、独身証明の六つ**だ。

このうち提出が義務づけられるのは、自分が実在することや年齢や性別に詐称がないことを示す本人証明である。これは、運転免許証やパスポートの写しをファックスで送る。

・・・

提出が最もためられるのは年収証明だろう。源泉徴収票の写しを提出するわけだが、そんな個人情報をネット婚活会社の見知らぬスタッフに見せたくはない。デジタルの通信ツールの向こうにどんな人たちがいるのかわからないからだ。

独身証明書は、この世にそんなものが存在することを、婚活によって初めて知った。自分が住んでいる地域の役所に行くと、発行してくれるらしい。結婚相談所、つまり結婚情報サービスに入会する際には、この書類の提出が必須だという。

・サイトに掲載されているプロフィール

男性のプロフィールを見て、まず感じたのは**むさくるしさ**だ。

同じ婚活サイトでも、女性のプロフィールは華やかだ。個人差はあるものの、オシャレをしているし、化粧もほどこしている。しかし、男の服装はダーク系が多く、ひげを生やしている会員もいる。テレビの刑事ドラマの犯罪者のファイルを見ているようだ。

女性のプロフィールの傾向で特徴的なのは、誰もかれもが**自称「癒し系」**であること。癒し系だと男に好まれると思っているのだろうか。自分を癒し系だと思いたいのか。この発想は単純だ。しかし、残念ながら、こうした自称癒し系たちに、男たちはまんまと食いついている。男のほうがもっと単純だった。

・嫌な印象のある女性

では、嫌な印象のある女性はどういうタイプか。

それは「私はこんなに素敵なんだから、それ相応の自信がある男性だけ申し込んできてね」というスタンスの女性だ。実際に、そのままの内容を書いている女性もいた。当然、女性プロフィール全体の中ではかなり目立つ。

恵まれた容姿、仕事のスキルの高さ、学歴の高さ、海外経験の豊富さ、自分が男性にいかにもててきたかなどを書く女性は思いのほか多い。

・好条件の男女はネットには来ない

男は、若くてきれいな女の子との楽しい生活を求めている。

女は、経済的な安定を求めている。

男女それぞれのプロフィールページを見ると明確だった。

しかし、ふつうに考えて、若くてきれいな女性や、高収入で見た目もいい男は、ネット婚活などしないものだ。ネットの外の社会でも十分に需要はある。好条件の男女はネットには来ない。

・会費

さらに、会費が高めだと安心感がある。「コストをかけてでもパートナーを見つけない」という真剣度の高い男女が参加するからだ。

会費が安いパーティーは、安いなりの男女が集まるように思える。ネットや情報誌の広告ページで探していると「女性は会費無料」というパーティーもある。

無料はだめだ。会場近くのデパ地下で買い物をした帰りでも参加できるのだ。「タダだから参加しよう」という人は絶対に真剣度が低い。

ためしに女性の会費が無料のパーティーにも参加してみると、予想通りだった。まず、全体的に地味だった。男女とも身なりへの気づかいが希薄なのである。さらに、表情の暗い参加者が多いことも気になった。

・「男でよかった」と思った場面

「では、フリータイム、スタート！ 皆さん、第一印象のよかった方と積極的に会話をしてください」

その合図とともに、立ち上がりこそゆるやかだった男たちが猛烈なスピードで女性のもとへ向かったのだ。

・・・

人気がある見栄えのいい女性には、たくさんの男が殺到する。

・・・

その一方で、男性が一人も話しに来ない女性もいる。そういう人は、うつむきながらじっと座っている。

「オレだったら、耐えられないなあ……」

そう感じた。男ならあぶれてもいい。会場内で自分の意思で行動できるからだ。動きがのろくて目当ての女性と話せなくても、自分のせいだと思える。「しょーがないから、トイレでも行ってくるか」程度のダメージだ。しかし、人気がない女性は一人で黙ってじっとしているしか術はない。

「男でよかった」と思った。

人気があってもなくても、自分から男性に話しに行く女性は見当たらない。女性は待つのみだ。

・また新しい相手を見つければいや

この“パーティー中毒化”のスパイラルには、さらに罣がある。

せっかく出会っても、その貴重なチャンスを長続きさせようとする意志が希薄なのだ。ちょっとでも相手と心の行き違いが生じると、関係を放棄してしまう。

「パーティーでまた新しい相手を見つければいや」

そう思ってしまうのだ。

・プレゼント

実は以前も二度、きれいな女の人にプレゼントを買い、逃げられている。一人目は大手旅行代理店勤務の女性で、七万円のブーツと十万円のスーツを買った。二人目はメーカーに勤める女性で、八万円の財布と十万円のバッグを買った。

・自分でパートナーを見つけられない男性が登録

女性担当スタッフに、次は積極的な男性と会いたいと、リクエストをした。

「それはうちでは無理よ」

即答された。

「自分でパートナーを見つけられない男性が登録しているんだから」

それをきっかけに、キミコさんは退会を決めた。

「会社のシステムにも、私を担当してくださったスタッフの方にも、すごくいいイメージを持っていました。でも、私が結婚をしたいと感じるような男性は登録していないことがはっきりとわかったからです」

・会費は二年で約四十万円

また、G社を直接訪ねると、会員のファイルをデジタルのモニター画面でチェックもできる。こちらには写真も掲載されているので、好みの相手を探すのにはとても便利だ。

こういったシステムをすべて合わせて、**会費は二年で約四十万円**になる。会員同士で結婚することになっても成婚料は支払わなくていい。つまり、相手を紹介し、引き合わせる場所までがこの会社のサービス内容だ。

・オタク度が高い

ほかに二十人くらいの男性と会ったが、気になる相手は一人もいなかった。すこしでもときめきを感じなければ、手をつないだり、それ以上をしたりは無理だ。ましてや結婚はあり得ない。エツコさんは二年で退会した。

「会う人とはとにかく**オタク度が高かった**。オタクの匂いがまったくない人は一人もいなかったんじゃないかな。そして、**想像力がないことも共通**していました。ちょっとでも想像力をもっていれば、**自分の言動によって相手がどんな気持ちになるかがわかる**と思うんですよ。でも、それができない人ばかりでした。だから、無神経な行動や発言を連発します。ああ、この人と一緒にはいられないなあ、とってしまいます」

・成婚料

「結婚情報サービスには、大きく二つのタイプがあります。成婚料をいただく会社と、成婚料不要の会社です。男性でも女性でも、自分に積極性がないと感じているならば、コストがかかっても成婚料がある会社をお勧めします」

成婚料をとらない会社は、基本的に、入会してお金を払って以降は何もしてくれない。

「私の会社では成婚料はいただいけません。だから、営業スタッフの給与体系は、基本給+歩合です。この歩合の部分は、新規会員を獲得した数と単価で計算されます」

スタッフは、当然、自分の働く時間とエネルギーは実収入につながる新規獲得に使いたい。

「だから、すでに会員になったお客様の相手をするのは時間の無駄と考えているスタッフがほとんどです。その点、成婚料がある会社の多くは、成婚料も歩合に計算されるので、登録後もフォローしてくれます」

ただ、**大手は成婚料をとらない会社が主流**だ。